

■ 背景・目的

- 令和元年に売却の方針から防災・減災のまちづくりを目的とした土地の利活用へと方針を転換
- 昨今の大規模災害やコロナウイルス感染症の拡大を教訓として防災都市づくりのより一層の推進
- 感染症対策と災害時医療の両面から、市内医療体制の充実強化

「防災・減災のまちづくりの実現」
「地域住民の利便性の向上」
「市民のスポーツ機会の確保」

↓

による課題解決と魅力向上

■ 現況・課題

【現況】

- 地域の一時避難場所として指定
- 長年にわたり暫定的なグラウンドとして利用（土埃の飛散、ボール等の施設外への飛び出しなど、周辺に配慮すべき課題あり）
- 東西方向をつなぐ歩行者・自転車の生活動線が不足など

【課題】

- 西側地域からの避難経路の確保
- 立地を活かした地域の防災拠点としての機能維持・向上
- 潤いのある緑豊かな環境の創出
- 今後は医療機関との連携強化の必要性 など



■ 目標・方向性

◆目標

土地利用の相乗効果による西部地区の防災拠点機能の強化

～地域の防災力と利便性の向上、医療体制の充実～

◆避難所（井口 CC）をはじめ、各施設が機能的に連携した一体的な防災拠点を目指します。

◆方向性

防災・スポーツ

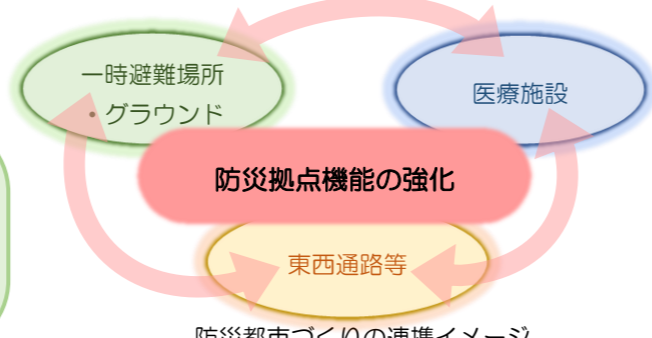
○地域の防災拠点を形成する
➡一時避難場所の確保、グラウンドの整備
平常時：グラウンド 災害時：一時避難場所

医療・健康

○市内の医療体制の充実を図る
➡医療機関の誘致、地域住民の健康づくり
平常時：地域医療 災害時：災害医療 ※感染症対応

暮らし・利便

○地域の交通利便性の向上を図る
➡東西通路の確保
地域交通拠点の整備（バス乗り継ぎポイント）
平常時：歩行者・自転車用通路 災害時：避難経路



◆土地利用により期待できる主な効果

- 東西方向のアクセスが可能となり、井口コミュニティ・センターとの連携、加えて緊急輸送道路である都道と西側地域が結ばれます。
- 平常時の地域医療と災害時医療との両立に加えて感染症対策が期待できます。
- グラウンドをトリアージや在宅避難者の生活支援の場所としての活用が期待できます。
- 東西通路等の緑化により、連続した緑空間が形成されます。 など

① 一時避難場所の確保・グラウンドの整備

スポーツ機会の確保と、防災拠点機能の強化を図ります。

避難所となる井口コミュニティ・センターに近接していることから、これらが連携しながら地域の防災性の向上を図ります。

これまでの暫定施設から恒久的な施設としていくこととし、整備にあたっては、近隣の住宅地などに配慮して、人工芝の敷設、安全確保のネット設置、緑化等による緩衝帯の設置などについて検討していきます。

② 医療機関の誘致

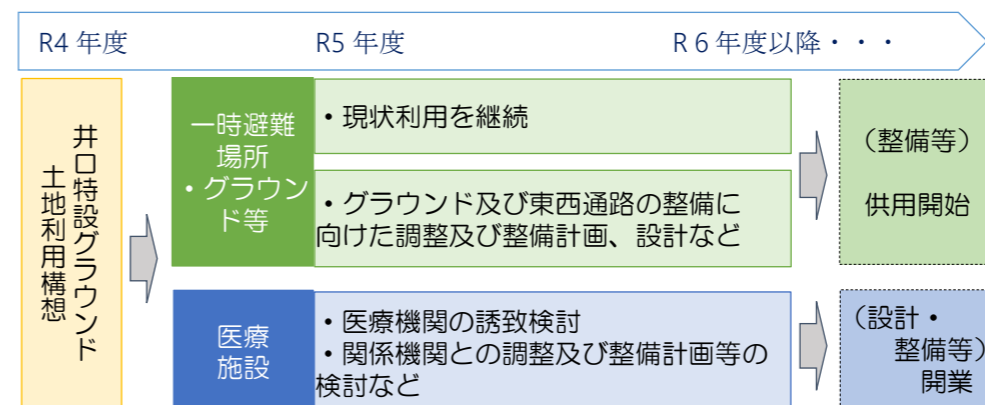
地域医療の拠点機能に加え、医療体制の充実により感染症にも強いまちづくりを推進します。災害時の医療拠点の確保に向けた病院機能の維持・継続のため、医療機関の誘致を目指します。

③ 東西方向の通路等の整備

東西方向にアクセスできる歩行者・自転車用通路を整備していきます。

また、都道側に、地域交通拠点としてのバス乗り継ぎポイントの確保について検討していきます。

■ 今後の予定



《問い合わせ先》

都市再生部まちづくり推進課

電話 0422-29-9702

FAX 0422-45-1271

メール machidukuri@city.mitaka.lg.jp